

社会－８（公民的分野） 議論を通して現実社会が抱える課題について説明，論述する事例  
【学習活動の概要】

1 単元名 我が国の政治について考えよう		
2 単元の目標 政治についての基礎的・基本的な知識や概念を習得し，それらを活用して，国の政治をめぐる課題についてその原因や解決方法について，思考・判断し，その結果や過程を適切に表現する。		
3 評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・我が国の政治の現状について興味・関心を持ち，意見文作成，グループ協議やパネルディスカッションなどの学習活動に対して意欲的に取り組んでいる。 【社会的な思考・判断・表現】 ・国民の政治参加や国の政治を取り巻く課題を発見し，原因や解決策について思考・判断して，その過程や結果をグループ協議やパネルディスカッションなどの中で表現している。 【資料活用の技能】 ・国民の政治参加や国の政治を取り巻く課題について統計資料や様々な立場の人たちの意見を活用しながら，課題の解決のために役立つ情報を読み取っている。 【社会的事象についての知識・理解】 ・国民の政治参加，国会，内閣，裁判所など国の政治の仕組みについて理解し，その基礎的・基本的な内容についての知識を身に付けている。		
4 教材 憲法に定められているように，国政は主権者である国民の意思を尊重しながら，国民の代表者によって行われている。しかしながら，昨今，国民の政治不信や，投票率の低下に見られる政治的無関心などの社会的状況が生まれてきている。このような中で，未来の有権者である生徒自身が，政治を取り巻く課題について思考・判断することは非常に重要である。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開（全11時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	○選挙や世論などの国民の政治参加や国会・内閣・裁判所などの我が国の政治の仕組みの概要について理解し，その知識を習得する。(5)	
第二次	○課題「現在の我が国の政治を取り巻く課題を発見しよう」を設定し，政治が抱える課題を発見して追究する論題を決定する。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでどのような課題があるのかを見つけ，その後クラス全体で議論をさせる。</li> <li>・意見文シート，反論シートに自分の考えを論述させる。</li> <li>・教師が議論をコーディネートし論点を明確にし生徒に自分自身の考えを論述させる。</li> </ul>
第三次	○論題「選挙権を国民の義務とするべきである」を設定して，資料を基に，論題について自分の考えや立場をまとめ，意見文を作成する。(2)	
第四次	○グループ討議やパネルディスカッションを行い，議論を通して，自分自身の論題についての考えを深化・発展させて見直す。(2:本時2/2)	
(2)本時の学習（11/11時間）		
①目標 論題「選挙権を国民の義務とするべきである」のパネルディスカッションに対してパネリスト，フロアの立場で意欲的に取り組むことができる。また，パネルディスカッションにおいて自分の考えを主張するとともに，最終判断の中で周囲の考えを基に深化・発展させて自分の考えを見直すことができる。		
②本時の展開 ○意見発表～論題について賛成・反対の立場で3名ずつのパネラーが意見発表をする。 ○意見交換1～意見発表の内容に対して全体で質疑応答や意見交換をする。 ○意見交換2～意見交換1の争点に対して全体で質疑応答や意見交換をする。 ○最終判断～議論を総括して賛成・反対のいずれの考えを支持するか，最終判断をする。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本単元は、中学校学習指導要領・社会（公民的分野）内容の(3)「イ 民主政治と政治参加」に基づき設定した。

解説にあるように「『選挙の意義』については、それが、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させるとともに、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせる」ことを学習のねらいとしており、本事例の場合、「投票率が低い」という課題を解決するために出された「選挙権を国民の義務とし、選挙の棄権には罰則を科するべきである」を論題として設定した。そして、個人での意見文の作成、グループ討議やパネルディスカッションを行い、論題について多面的・多角的に思考・判断させ、その過程や結果を表現させるとともに、議論を通してさらに深化させた。

【言語活動の充実の工夫】－討論活動を円滑に進めるための工夫－

本事例においては、議論を円滑に進めるための工夫を図りながら言語活動が充実するように取り組んだ。生徒が自分の意見を発表できなかつたり、他者の意見に対して反論や同意などができなかつたりする原因としては、主に次の2つがあると考えられる。

1 発言したいことはあるのだが、どのように発言していいのかが分からない。

2 討論のポイントが分からず、何を発言したらいいのかが分からない。

そこで、本事例では、この2つの課題が改善できるように、以下の点を工夫して実践を進めた。

1 発言の方法が明確になるようなワークシート（意見発表シート、反論シート）の作成

2 論点が明確になるような教師のコーディネート

まず第一に、ワークシートの作成についてである。本事例では意見発表と意見交換に分けて行っている。そこで自分の意見が述べやすくなるように、意見発表シートと反論シートを事前に作成させている。これらがあることで生徒は安心して発言できるようになるとともに、ここで身に付けた発言のスキルが他の場面にも応用できるようになり、日常の授業の中でも根拠に基づいた主張や反論ができるようになった。

第二に、論点が明確になるような教師のコーディネート

の工夫である。討論学習では極力、教師が介入せずに生徒の自主性に任せる方が望ましいという考えもあるが、この場合、論点が不明瞭なままに討論が進み、議論が全くかみ合っていないという状況もよく見られる。そこで意見発表、意見交換1、意見交換2のそれぞれが終了した段階で「ここでの意見のポイントはどこであったのか」、「何が論点になっているのか」などを板書しながら教師が説明し、生徒が論点を理解できるように工夫した。

本事例においては、意見発表で、賛成側が「選挙を国民の義務とすることで投票率が上がり、民意が政治に反映されるようになる」と主張し、反対側は「義務で投票率は上がるが、無理矢理に投票しても政治への関心は高まらず、いい加減な投票が増えるようになる」と主張した。

賛成・反対ともに投票を義務化することで投票率が上がることは認めており、それを前提にして意見交換1・2においては、「選挙の義務化によって本当にいい加減な投票が増えるのか」、「投票に行くことで国民の政治への関心は上がるのか」「国民が投票に行くことが民主主義にとって大切なことなのか」などの論点を設定して議論を進めた。これによって生徒は論点を意識するようになり、かみ合った議論を行い、論題についてより深く考えることができるようになった。

日本は選挙を国民の義務とするべきである？

伊万里市市立啓成中学校3年( )組( )号・氏名( )

この日から「日本は、選挙を国民の義務とし、選挙を実施した場合には罰金1万円とする」について(賛成・反対)の立場で意見を発表します。  
まず、自分(私)が考える民主主義のあり方について説明します。  
民主主義において一番大切なことは

より多くの国民の声は政治に反映されることだと考えています。

この日から考えると「日本は、選挙を国民の義務とし、選挙を実施した場合には罰金1万円とする」ことについては、自分(私)は(賛成・反対)します。  
その理由を説明します。まず、証拠資料を引用します。

最近の選挙の投票率、2009年総選挙 69.3%、オストリアの前回の投票率 99.9%  
オストリアは選挙を義務化した場合 罰金刑(最高10万ユーロ)

このことから、選挙を国民の義務とするべきで(ある・ない)と考えた理由を説明します。

選挙の義務と罰金を与えるオストリアの投票率は、99.9%と90%を下回るとは格別で、しかし日本の投票率は、2009年の選挙は国民の関心の高まりから99.9%と、50年前は60%前後の投票率で、民主政治の主権者の国民が政治に参加するに積極的である。しかし、50年前は、40%近くの国民が政治に参加していない。これは、日本の政治に国民の関心が高まっているにすぎない。義務化にすれば、確かに投票が増えるという考えもあるが、それは自分の国民が思っている通りではない。むしろ無責任な投票は多くなる。今の日本は、国民が政治に積極的に参加し、自分も責任を持って投票し、自分の意見が政治に反映されることこそが大事で、それによって選挙が行われるべきで、義務化はむしろ国民の関心や投票率を下げるとは思っている。

以上のことから、選挙を国民の義務とするべきで(ある・ない)と思います。  
これで、意見発表を終わります。